

2008/11/10でレビューした方向 =

“minimal success” + 国際ネットワーク

→ 単体での解析 + 段階を踏んだデータ共有

問題点など

(1) 日本での解析のactivityを残す & minimal success の必要性：

- “LCGTの成果”を確保する (初観測の標榜)
- 国際的な解析の場合に、LCGTの寄与をはっきり打ち出すにはLCGTに明示的に属する研究者が必要
- 物理ができないなら、解析やデータ屋は日本で研究できない

日本で解析をおこなうための、組織化や予算獲得の努力をやらなければならない。(自助努力が必要)

問題点など

(2)国際ネットワーク(LSC?)のみで行う場合の問題点

- LCGT側も

データの前処理、質の保持

全体の解析におけるLCGTデータの寄与

は必要で、100%楽になるのではない。

- 物理の成果の発信はLCSのみになってしまう。
- 将来的なオプションがなくなる。例えばアジア・オセアニアや欧州と日本で組む(cf: ET, INDIGO)というような。

(3)LCGT単体ですべてやる場合の問題点

- 人も金もまったく足りない
- 天文的な成果には、複数台での三角測量やラジオメトリが必要

	データ取得部	データ前処理／校正	連星合体探索			バースト探索	連続波探索	背景重力波探索	重力波源の同定	重力波天体の物理
			マッチドフィルタ探索	コインシデンス解析	コヒーレンス解析					
minimal success + 国際ネットワーク	必要	必要	○	○	○	○	○	○	○	○
国際のみで	必要	必要	○	○	○	○	○	○	○	○
LCGT単体	必要	必要	○	×	×	△	○	×	×	△
LCGT(2台)	必要	必要	○	○	○	○	○	○	×	○

○可能

△ある程度可能、可能だが、重大な制限がつく

×無理

単体で○の場合でも、原則として複数台に勝つことはありえない。